

【第六回】「硬筆書写の基礎・基本とその応用」

— 漢字楷書 『字形の整え方』 その二 —

文教大学文学部講師
本誌編集委員

米本 美雪

◇はじめに

前回は漢字楷書の字形の整え方の十一項目について解説しました。今回も引き続き解説していきます。

楷書という語には、規範的な正しい文字という意味が含まれています。このことから、楷書を正しく整えて書くための原理原則について、演習を交えながら解説していきます。

それでは左記の手順にて学習していきましょう。

◎学習手順

- ①②③④の△文字例について、それぞれの改善点を記入例を参考にして書いてください
(下記記入例参照)。

- 2、各文字の改善点と、字形の整え方の解説を確認してください。

- 3、解説内容に留意しながら、各文字のなぞり書きとまとめ書きを行ってください。

△記入例▽

△文字例 △文字例の改善点

| | |
|---|---------------------------------|
| ① | 三 |
| イ | 始筆の筆圧は強く入筆せず、 曲線的に右下がりに書かない。 |

①「口」

△文字例 △文字例の改善点

| | |
|---|---|
| ① | 口 |
| イ | |

□改善点

①第二画の終筆は下に出さない。

□解説(閉じる画の出し方)

字形の整え方

十二、「口」のように、折れのとすぐに横画

で閉じる場合は、第一画(縦画)と第三

画(横画)の終筆を出す。

※書いてみよう「口」

なぞり書き まとめ書き

| | | | |
|---|---|---|--|
| 口 | 口 | 口 | |
| | | | |

② 「日」

△文字例 △文字例の改善点



□改善点

④ 第四画の終筆は右に出さない。

□解説 (閉じる画の出し方II)

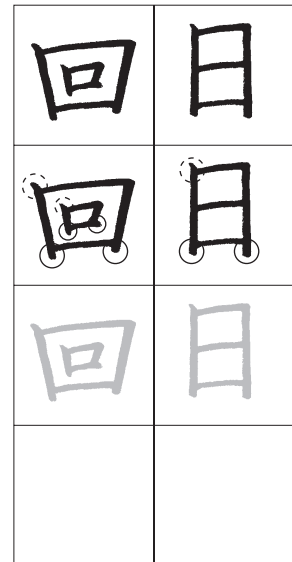
字形の整え方

十三、「日」のように、閉じる画が第四画以上の場合、**第一画(縦画)と第二画(折れ)の終筆を出す。**

これは、折れのあと、中の点画を書いてから閉じる場合の画の出し方です。では、「回」の画の出し方はどのようになるのでしょうか。「回」の中の「口」は、第十二項の画の出し方で解説した通り、折れのあとすぐに横画で閉じますので、**第三画(縦画)と第五画(横画)の終筆を出します。**「回」の閉じる画は第六画ですので、**第一画(縦画)と第二画(折れ)の終筆を出します。**

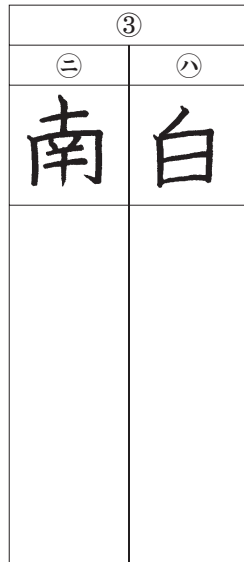
※書いてみよう「日」「回」

なぞり書き まとめ書き



③ ⑧ 「白」「南」

△文字例 △文字例の改善点



□改善点

⑧ 「白」の第二画(縦画)と第三画(折れ)は垂直に下ろさない。

② 「南」の第三画(縦画)と第四画(折れ)は垂直に下ろさない。

□解説 (折れの方角I)

字形の整え方

十四、概形的に横長の四角の縦画や折れは、**同**

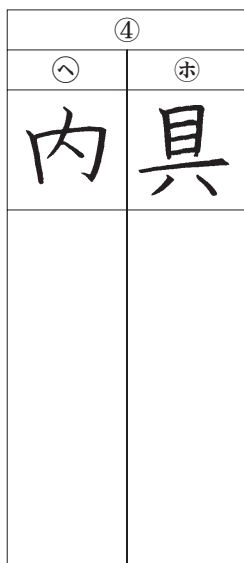
じ程度内側に寄せ、下方を少し狭くする(「南」のように閉じる画がない場合も同様)。

「白」の第二画から第五画、「南」の第三画から第九画の概形は横長になるため、各々の縦画と折れは同じ程度内側に寄せます。特に、「南」の縦画と折れを垂直に下ろした文字例を多く見受けますので留意してください。

「白」と「南」のなぞり書き、まとめ書きは、後述の解説を確認後、書いてみましょう。

④ ⑥ 「具」「内」

△文字例 △文字例の改善点



□改善点

⑥ 「具」の第一画(縦画)と第二画(折れ)は内側に寄せない。

① 「内」の第一画(縦画)と第二画(折れ)は内側に寄せない。

□解説（折れの方向II）

字形の整え方

十五、概形的に縦長の四角の縦画や折れは垂直に下ろす（「内」のように閉じる画がない場合も同様）。

「具」の「目」と「内」の概形は縦長になるため、各々の縦画と折れは垂直に下ろします。特に、「内」の縦画と折れを内側に寄せた文字例を多く見受けますので留意してください。「具」と「内」のなぞり書き、まとめ書きは、次項の確認後、書いてみましょう。

■さまざまな縦画と折れの方向

第十四項と第十五項の縦画と折れの方向について、より詳しく解説していきます。

□「白」の縦画と折れ

「白」の第二画（縦画）と第三画（折れ）は内側に寄せますが、「百」や「的」の「白」の縦画と折れの方向はどのようになるでしょうか。「白」の「白」の概形は縦長になるため垂直に下ろします。同様に、「的」も「白偏」の概形は縦長になるため、垂直に下ろします。同じ「白」ですが、概形により縦画と折れの方向が

異なります。

□「日」の縦画と折れ

「書」「旦」「暑」の「日」の縦画と折れの方向についても解説します。「書」の部首である「日」は「平日」と言い、概形的に横長になるため内側に寄せます。「旦」の「日」も概形的に横長になるため内側に寄せます。「暑」の第一画から第四画の「日」は概形的に横長になるため内側に寄せ、第九画から第十二画の「日」は概形的に縦長になるため垂直に下ろします。同じ「日」ですが、概形により縦画と折れの方向が異なります。

□文字の位置で異なる縦画と折れ

さらに、「猷」、「離」と「璃」、「融」と「隔」についても解説しておきます。「南」の縦画と折れは、第十四項で解説した通り内側に寄せますが、「猷」の「南」は文字の左側にあり、概形的に縦長になるため垂直に下ろします。「離」の「离」は文字の左側にあり、第七画から第十一画（「ム」）を二画で書く場合もある）の概形は、第十五項で解説した通り、縦長になるため垂直に下ろしますが、「璃」の「离」は文字の右側にあり、第十一画から第十五画（「ム」）を二画で書く場合もある）の概形は横長になるため

め内側に寄せます（※印の「璃」は縦長の文字例です）。

また、「融」の「隔」は文字の左側にあり、第五画から第十画の概形は縦長になるため、こちらも第十五項の解説通り垂直に下ろしますが、「隔」の「隔」は文字の右側にあり、第八画から第十三画の概形は横長になるため内側に寄せます。

今回は、折れの接し方や方向について解説しました。字体（文字の骨組み）が正しければ文字として間違いではありませんが、概形で判断し、さまざまな折れを含む漢字に應用できるよう心がけてください。

次回も字形の整え方について解説します。

—まとめ問題にチャレンジ—

次の①～⑤の~~~~部の平仮名を、折れの方
向に留意し漢字で□内に書いてください。

①さっ数

②せん伝

③りん理

④しょう業

⑤おくの細道

※書いてみよう「白」「百」「的」「南」「献」「具」「内」「旦」「暑」「離」「璃」「融」「隔

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 内 | 具 | 献 | 南 | 的 | 百 | 白 |
| 内 | 具 | 献 | 南 | 的 | 百 | 白 |
| 内 | 具 | 献 | 南 | 的 | 百 | 白 |
| | | | | | | |

なぞり書き
まとめ書き

内
教科書体
内
古典例

南
古典例

百
古典例

まとめ問題 解答

※解答の古典例

| | |
|-----|-----|
| ① 冊 | ① 冊 |
| ② 宣 | ② 宣 |
| ③ 倫 | ③ 倫 |
| ④ 商 | ④ 商 |
| ⑤ 奥 | ⑤ 奥 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 隔 | 融 | 璃 | 離 | 暑 | 旦 |
| 隔 | 融 | 璃 | 離 | 暑 | 旦 |
| 隔 | 融 | 璃 | 離 | 暑 | 旦 |
| | | | | | |

なぞり書き
まとめ書き

隔
古典例

璃
※縦長の文字例

旦
古典例